

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュちりゅう		
○保護者評価実施期間		令和7年12月1日	～ 令和8年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間		令和7年12月1日	～ 令和7年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日		令和8年1月16日	

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や各連携機関と密に連携を取っている。	送迎時に保護者や学校、保育園、幼稚園と児童の様子を伝えたり、聞いたりして連携を図るようにしている。	各連携機関の支援方針を共有してもらい、事業所で行えることをスタッフ間で確認しながら支援をしていく。
2	問題が起きた際の報連相が早く、迅速に対応をすることができている。	細かいことでもミーティングなどで全体に共有したり、自分では対応が難しい場合には、管理職や周囲のスタッフに相談したりしながら進めることができている。	今後も危機管理の視点を大切にしながら、問題が起こりそうな事案については報連相の徹底をしていく。
3	子どもに向き合って丁寧な支援を行っている。	個別支援計画やモニタリングを全体で共有しながら、児童の個々に沿った丁寧な支援を行うことができている。	引き続き、グループの研修に参加するなどしてスタッフの療育知識や実践能力の向上に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの人数に対して、支援スペースが狭く、やりたい遊びができないことがある。	子どもの人数に対して十分な広さが確保できない日がある。走り回るスペースがなく、遊びに制限がかかってしまう。	限られたスペースの中でも、子どもたちが楽しめるよう、活動を工夫していく。子どもの人数が多い時には、公園に行くなどでして体を動かせる機会を増やしたい。
2	活動プログラムの実施が定着できていない。	土曜、祝日などはイベントを開催し、いろいろな活動を行っているが、平日に関しては、遊び中心の支援になっている。	遊びの時間だけでなく、活動プログラムを取り入れて子どもの遊びの幅や挑戦する体験、できることを増やすことに繋げていきたい。
3	職員の入職・離職が多く、人員の入れ替わりが頻繁にあるため、不安に感じる保護者もおられる。	福祉業界という職業柄、主に労働の条件や環境が原因で人員の入れ替わりが多くなってしまっていると考えられる。	業務の削減・効率化についてはだんだんと改善されつつあるが、職員の労働条件の見直しや人員不足の解消に至っていないので、引き続き改善に向けた取り組みを実施していく。